



人間ってすごい



舞城王太郎
「ディスコ探偵水曜日」

pinkpanda

人間ってすごい

10年前、私は大学生だった。

当時つきあっていた彼氏とはよく本を貸し借りしていた。舞城王太郎の『世界は密室でできている』も彼に借りた本のひとつだ。

その本では、数々の密室が登場する。数々の、非現実的な密室が。

リアリティなんて関係ない。現実にはありえない。馬鹿馬鹿しくなるくらい、常軌を逸した密室たち。でもすっとんでいて、限りなく、これはいったい、なんてことだろう、おもしろい！

私は興奮してその本を読んだ。

本を読み慣れていると思っていた。ミステリーなら私の専門分野だと思っていた。

なのになんてことだろう。いったいなんだこれは。なんというジャンルなんだ？ミステリーなのか？青春小説なのか？ひっくり返って純文学なのか？いやジャンルなんてどうでもいい。呆然とするくらいおもしろい。予想もしない本だった。

10年が過ぎた。

私は大学院に進学し、それから地方の会社に就職し、結婚もした。子供もできた。

就職してからは学生時代に比べて本を読む時間が減ってしまっていた。だから『ディスコ探偵水曜日』の存在も、発売されてすぐには気付かなかった。

平積みされていたそれを、私はあるとき手に取った。

上・中・下構成の長編となると、会社員である身にはちょっとしんどそう。だがしかし、タイトルにある『探偵』の文字！そう、これは舞城王太郎のミステリーものだ。舞城王太郎はミステリー的ではない作品も多く出していたが、やっぱりなんといっても私が愛するのはミステリーだ。しかも『世界は密室でできている』の舞城王太郎。よくよく見れば、『ディスコ探偵水曜日』なんてタイトルも、とても舞城らしいではないか。私はえいやっと、上・中・下を購入した。

就寝前のベッドの中で読み終わった。

はははははは！声を出して笑ったら、並んで本を読んでいた夫がこちらを向いた。

なんていうの、もうこれ、ええ？ありえない。なにがありえないって、すごいんだよ。すごすぎる。さすが舞城。ていうか上巻からいきなりすごくてね。それなのに中も下もますますすごくてね。その内容ときたら、ええ？なんなの？ありえなすぎるよ。

深夜に興奮している私は大迷惑な存在だろうに、優しい夫は私に聞く。どんな話だったの？

子供誘拐捜索専門の外人探偵、ディスコ・ウェンズデイが主人公で、故あって育てている6歳の梢ちゃんがいなくなって、ていうか突然17歳になったりする現象があって、探してみるとパイナップルハウスでの連続殺人事件現場にいて、そこに大爆笑カレーや、本郷タケシタケシ、猫猫にゃんにゃんにゃん、豆源などの名探偵が次々に現れ、殺人事件の犯人を推理するんだけど、毎回

それっぽい推理なのにどんでん返しがあってどんどん迷宮になって行って、次元を越えたりして、なんだかすごいの！

説明しておきながら自分でも自分が何を言っているかわからない。わけがわからない。でもちゃんとしっかり素敵な物語なのだ。そこのところ伝わっているだろうか。伝わらないよなあ！ミステリーってのはトリックを言っただけとはいけないという縛りがあるから、肝心なところが説明できないんだよなあ！ていうかミステリーかこれ。ジャンル分けができないあたり、『世界は密室でできている』を思い出す。それでいながら呆然とするほどのおもしろさは、輪をかけてぶっ飛んでいる。

10年前と変わらず優しい夫は、なだめるように私のお腹をぽんぽんと軽くたたく。

お母さん、本がおもしろすぎてわけがわからないことを言ってるよ。

だってわけがわからない話なんだもの。とにかく読んでみてよこれ。すごいんだよ。人間ってすごい。

私も大きく膨らんだ自分のお腹をさする。

ねえ人間って、人間の想像力ってすごいんだよ。こういう本がこの世にはあるんだから、生まれてくるのも悪くないよ。人間って悪くないよ。生まれて、目を開いて、文字を覚えて、本を開いて、ああ、未来が楽しみだねえ！

社会を包む閉塞感だとか、年金制度の破たんだとか、教育現場の崩壊だとか、テレビは暗いニュースばかり話すけど、たとえば私の手の中にある『ディスコ探偵水曜日』は、人間の無限の可能性をいっぱい詰めてきらきらと輝いている。

だからベビー、試しにこの世に生まれてきてみようぜ。

テレビがああだこうだ言うけれど、この世界には少なくとも、びっくりするほどおもしろい物語がある。人間の想像力は想像以上だ！だから、この世界はそんなに悪くない。人間ってすごい。

そしてなんとなんと、私たちはそのすごい人間なのだ！

たぶんこれは希望ってやつだ。

この世界に希望はある。

だから安心して、ヘイカモンベイビー、生まれてこようぜ！